

ズームアップ！ 健康づくり

受けていますか？ 肺がん検診

肺がんの部位別がん死亡数は、男性ではトップ、女性では大腸がんに次ぐ2位となっています。全国で年間約7万6000人が肺がんにより亡くなっています。

初期の肺がんでは症状が見られないことも多く、進行して初めて症状が出ることもあります。主な症状は、咳や痰、痰に血が混じる、胸の痛み、動いたときの息苦しさを動悸、発熱などです。



◆肺がんと喫煙の関係とは？

肺がんの危険因子の一つとして、喫煙が挙げられます。

喫煙者は非喫煙者と比べて男性では4.4倍、女性では2.8倍肺がんになりやすく、また喫煙を始めた年齢が若く、喫煙量が多いほど肺がんになる危険性が高くなります。

受動喫煙（周囲に流れるたばこの煙を吸うこと）も肺がんになる危険性を2〜3割程度高めるといわれています。喫煙していない人や受動喫煙の影響を受けていない人でも肺がん

んになることもあります。喫煙中の人は自分やご家族のために、ぜひ禁煙に挑戦してみてください。保健センターでは禁煙相談を実施していますのでご利用ください。

◆定期的にがん検診を受けましょう

がんを早期発見し、適切な治療を行うために、定期的にがん検診を受けることが大切です。本市では満40歳以上であれば、4月〜翌年3月の年度内に1回、無料で肺がん検診を受けることができます。市ウェブサイトで実施医療機関や集団検診の日程をご確認いただけます。詳しくは、22ページをご覧ください。

あなた自身のため、また、あなたの大切な人のため、がん検診を受けたことがある人もない人も「もしも」のために定期的に検診を受けましょう。

■がん死亡数の順位（令和4年度）

順位	男性	女性	男女計
1	肺	大腸	肺
2	大腸	肺	大腸
3	胃	膵臓	胃
4	膵臓	乳房	膵臓
5	肝臓	胃	肝臓

出典：人口動態統計がん死亡データ

- ☑ 肺がん死亡数は全国で約7万6000人
- ☑ 喫煙は肺がんリスクを高めます
- ☑ 早期発見のためにがん検診の受診を



健康づくり推進課（☎28）5520

手話を覚えよう

本市では、平成31年1月より「富田林市手話言語条例」を施行し、手話は言語であるという認識に基づき、手話への理解促進、手話の普及・啓発を進めています。

耳の聞こえる人は、日本語や英語など「音声言語」でコミュニケーションを図りますが、耳が聞こえない、聞こえにくい人の中には手話をコミュニケーション言語としている人がいます。

手話は手指や体の動き、表情などを使ってコミュニケーションを図る「見る言語」です。手話を覚えて、コミュニケーションを図り、聴覚障がいへの理解を広めていきましょう。

日常でよく使う表現を学びましょう（パート8）

簡単な表現を覚え、挨拶をすることで、お互い親近感が湧き、相互理解につながります。

●ワンポイント手話

・晴れ

両手の手のひらを前に向けて交差させて、それぞれ斜め上に円を描きながら開きます。

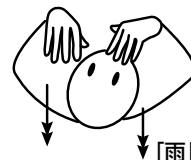


「晴れ」

「晴れ」の他に「明るい」という意味もあります。逆の動きで「暗い」という意味になります。

・雨

両指を広げて下に向け、上から下へ2〜3回下ろします。



「雨」

・雪

人差し指と親指で丸を作り、顔の辺りから下に向かってひらひらと手首を回転させながら下ろします。



「雪」

雨のように両手で表現しても構いません。

※雨も雪も降り続く場合の表現は同じ表現をくり返します。大雨や大雪などは手の動きを強く速く動かすなど、情景を思い描きながら手を動かすことでイメージが伝わります。

障がい福祉課（内線192）